



20 唐子遊 和田光石 一点

昭和三年（一九二八）

牙彫

一五・二×一八・二×一三・五

大正十三年の皇太子御結婚の折に、奉祝品として一对の棚とそれに付属する棚飾り品の制作が計画され、昭和三年に完成して納められた。可愛らしい三人の唐子たちが、楽器を奏して踊る姿をとらえたこの作品は、一对の棚のうち香淳皇后に献上された「鶴桐蒔絵螺鈿棚」に飾られた品である。桑木地の基壇のうえで、牙彫による唐子が遊びに興じており、向かって左の鉞子（シンバル）をもった唐子の背面に「光石」の刻銘がある。作者の和田光石（本名季雄、一八八四〜）は、明治三十九年に東京美術学校彫刻科に入学、石川光明らのもとで牙彫を学んだ。軍務に就いた後、大正十年から昭和八年まで母校で教鞭を執っている。光石の遺した作品はほとんど知られていないが、本作は明治期に隆盛をみせた牙彫の確かな伝統技を示している。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

福やぶござれ ― 寿ぎの美・新春に集う

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 42

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年一月六日発行

©2007, The Museum of the Imperial Collections